

ブラックロック・ グローバル・バランス・ファンド

追加型投信／内外／資産複合

交付運用報告書

第44期(2020年12月16日決算)

作成対象期間(2020年6月17日～2020年12月16日)

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「ブラックロック・グローバル・バランス・ファンド」は、このたび、第44期決算を行ないました。

当ファンドは、内外の公社債を中心に株式にも分散投資するバランス運用により、リスクを低減しながら、円ベースでの信託財産の安定した成長を目指して運用を行ないました。当期につきましても、これに沿った運用を行ないました。

ここに、運用経過について、ご報告いたします。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

ブラックロック・ジャパン株式会社

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号

丸の内トラストタワー本館

運用報告書に関するお問合わせ先

電話番号:03-6703-4300

(受付時間 営業日の9:00～17:00)

ホームページアドレス

www.blackrock.com/jp/

第44期末(2020年12月16日)

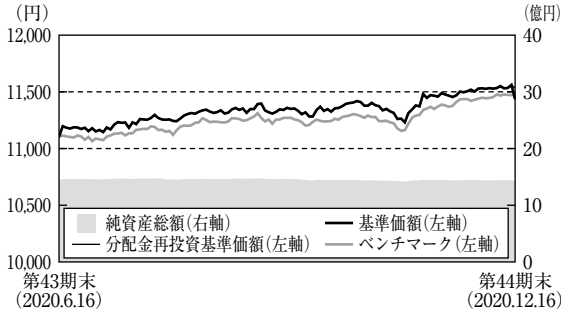
基準価額	11,433円
純資産総額	1,427百万円
騰落率	3.9%
分配金	100円

(注) 騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

- 当ファンドは、投資信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記弊社ホームページの「ファンド・ETF情報」、「投資信託」から当ファンドのファンド名を選択することにより、当ファンドの「運用報告書(全体版)」を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 「運用報告書(全体版)」は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

◇運用経過

■当期中の基準価額等の推移について（第44期：2020年6月17日～2020年12月16日）



第44期首：11,103円
 第44期末：11,433円(既払分配金100円)
 騰落率：3.9%(分配金再投資ベース)

- * 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- * 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- * ベンチマークは、複合インデックスです。詳細につきましては後記をご覧ください。
- * 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、前期末の基準価額に合わせて指数化しています。

■基準価額の主な変動要因

当期、当ファンドの基準価額の騰落率は+3.9%となりました。当期、内外株式市場が上昇しブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンドおよびブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンドが上昇したことが、当ファンドの基準価額の主な上昇要因となりました。

■投資対象ファンドの当期間中の騰落率

組入ファンド	騰落率
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)	2.6%
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)	2.0%
日本債券マザーファンド	0.2%
ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド	13.4%
ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド	27.4%

* ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンドは米ドル建てであるため、米ドルベースの騰落率を記載しております。

■ 1万口当りの費用明細

項目	第44期		項目の概要
	(2020. 6. 17~2020. 12. 16)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 86	% 0.755	信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 期中の平均基準価額は11,340円です。
(投信会社)	(43)	(0.375)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(41)	(0.358)	販売会社分は、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(3)	(0.022)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.001	売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 / 期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(0)	(0.001)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税 = 期中の有価証券取引税 / 期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	2	0.015	その他費用 = 期中のその他費用 / 期中の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0.010)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(その他)	(1)	(0.005)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	87	0.771	

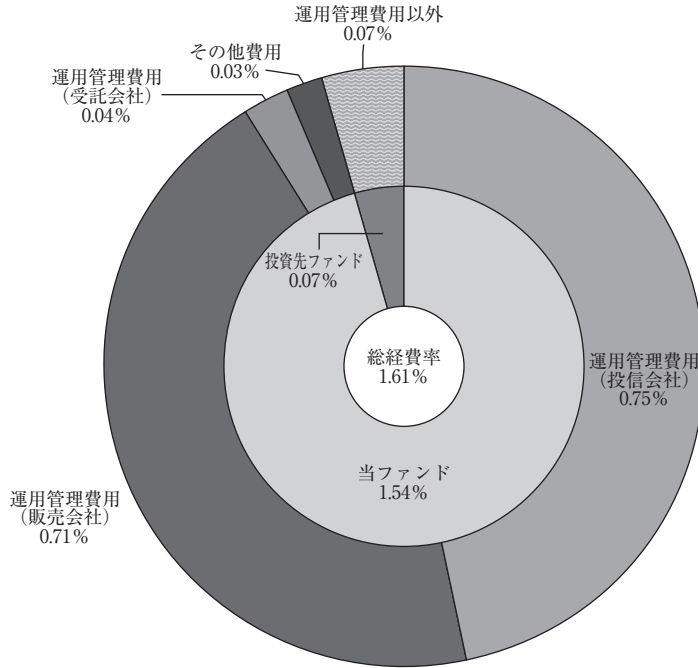
(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当りのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

■総経費率



※当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.61%です。

総経費率(①+②+③)	1.61%
①当ファンドの費用の比率	1.54%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.00%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.07%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

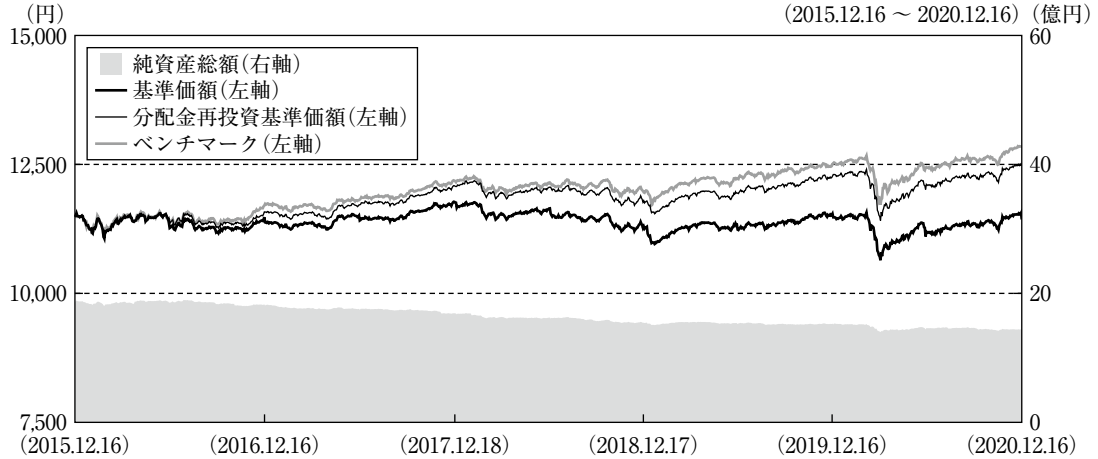
(注4) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2015年12月16日の基準価額をもとに指数化したものです。

* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2015年12月16日 期初	2016年12月16日 決算日	2017年12月18日 決算日	2018年12月17日 決算日	2019年12月16日 決算日	2020年12月16日 決算日
基準価額(分配前) (円)	11,484	11,378	11,662	11,160	11,474	11,433
期間分配金合計(税込み) (円)	-	200	200	200	200	200
分配金再投資基準価額の騰落率(%)	-	0.8	4.3	△ 2.6	4.6	1.4
複合インデックス騰落率(%)	-	2.2	3.8	△ 1.8	4.6	2.6
純資産総額 (百万円)	1,865	1,811	1,674	1,528	1,520	1,427

* ベンチマークは、複合インデックスです。

複合インデックスは、以下の指標をそれぞれの割合で合成した指数です。国内債券：NOMURA-BPI50%、外国債券：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)10%、同インデックス(除く日本、円ヘッジ円ベース)10%、国内株式：TOPIX(東証株価指数)10%、外国株式：MSCIコクサイ指数(円換算ベース)10%、短期金融商品：無担保コール翌日物10%。

なお、ベンチマークを構成する指数は、各種金融機関等で公表されており、その機関等の知的財産です。またこれらの機関等は、当ファンドの運用成果等に関する一切の責任を負いません。

投資環境について

当期(2020年6月17日～2020年12月16日までの6ヶ月間)、新型コロナウイルスのワクチンや治療法の開発・供給への期待感や、主要国での大規模な財政・金融支援策が維持されたことで、市場のリスク選好姿勢が維持され、先進国株式市場は上昇基調が続きました。

期初より、大型テクノロジー株がけん引する米国株式を中心に、株式市場は上昇基調となりました。また、ワクチン開発への期待感、予想を上回る経済指標、緩和政策の継続観測などが好感され、市場のリスク選好が強まりました。一方、米国での局地的な感染拡大や米中関係の緊張が高まったことで、上値を抑える局面も散見されました。

9月に入ると、これまで好調に推移していたテクノロジー株を中心に先進国株式は売られ、調整局面入りしました。更に、米国での感染拡大が加速する中、米連邦準備制度理事会(FRB)議長の悲観的発言や、追加の景気支援策の早期成立期待感の剥落などから景気回復への懸念が高まり、市場がリスクオフに転じる場面もありました。11月初旬の米国大統領選挙後も混とんは続いたものの、政治情勢への過度の懸念は後退し、追加財政政策の導入への期待などが下支えしました。期末にかけては、欧米での感染再拡大が顕在化し、移動制限の強化や経済活動の鈍化への懸念が拡大したものの、新型コロナウイルスワクチンの承認期待が下支えし、株式市場は底堅く推移しました。

<内外株式市場動向>

株式市場は、米国S&P500種株価指数が前期末の3124.74から当期末に3701.17へ、また、東証株価指数(TOPIX)は前期末の1593.45から当期末に1786.83へと上昇しました。

<内外債券・為替市場動向>

債券市場では、日本10年国債利回りは、前期末の+0.02%から+0.01%とほぼ横ばい推移となりました。米国10年国債利回りは、前期末の+0.75%から当期末には+0.92%へと上昇しました。またドイツ10年国債利回りは、-0.43%から当期末には-0.57%へと低下しました。

為替市場では、ドル/円は前期末の107.32円から当

期末は103.73円と円高ドル安、ユーロ/円は前期末の121.63円から当期末は126.03円へと円安ユーロ高となりました。

ポートフォリオについて <当ファンド>

投資環境を反映し各資産のベンチマーク・リターンは国内債券が+0.11%、国内株式が+12.14%、外国債券ヘッジ付きが+1.27%、同ヘッジなしが+2.07%、外国株式が+17.72%となりました。当ファンドの資産配分においてはほぼ中立での運用を行ないました。

投資先ファンドにおける運用経過は以下の通りです。

<日本債券マザーファンド>

中期ゾーンを中心とするロールダウン効果(イールド・カーブの傾斜に沿って利回りが下がり、債券価格が上昇すること)の魅力に乏しいカーブ形状や、カーブ全体にスティープ化余地大との見方等を背景に、イールド・カーブに関しては、スティープ化ポジションを維持しました。具体的には、10年近辺のオーバーウェイト、10-40年のスティープ化ポジションを中心とする残存期間構成を維持しました。ポートフォリオのデュレーションについては、中立を維持しました。セクター配分については、引き続き政府保証債および地方債のアンダーウェイト、国債のオーバーウェイトを維持しました。事業債、金融債、円建外債などの信用リスクを伴う債券に関しては、日銀の社債買い入れの影響や投資家によるプラス利回りへの選好などを背景として国内事業債を中心にスプレッド水準が必ずしも魅力的でないことなどから、デュレーション調整後で概ね中立から小幅アンダーウェイトを維持しました。

<ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし/為替ヘッジあり)>

デュレーション戦略に関しては、各国政府及び中央銀行による大規模な政策、国債の増発、景気回復期待の高まり等が金利の上昇要因になると見込み、ポートフォリオ全体のデュレーションをアンダーウェイトとしました。

米ドル圏では、米国連邦準備制度理事会(FRB)が緩和的な姿勢を継続する中、8月末のジャクソン

ホール会合で「平均インフレ目標」を考慮した政策の見直しを発表しました。加えて、財政拡大に伴う国債の発行が増加したほか、リスク資産の回復を背景に金利が上昇することが想定できた為、米国デュレーションのアンダーウェイト幅を徐々に拡大しました。その後11月前半にかけて、欧米における新型コロナウイルス感染再拡大や米国大統領選挙の不透明感を受けて、市場がリスク回避的に転じる可能性に鑑み、デュレーションのアンダーウェイトを一部削減しました。当期末にかけては、新型コロナウイルスのワクチン開発の進展や追加財政政策に対する市場の楽観的な見方を背景に米金利が緩やかに上昇する可能性があるとの見込み、デュレーションのアンダーウェイトを維持しました。

ユーロ圏については、当期を通して周辺国のオーバーウェイトを中心に維持しつつ、機動的な調整を行いました。

欧州周辺国については、欧州復興基金の恩恵を受けるとの見込み、基金の議論を踏まえてイタリアやスペインをはじめとするデュレーションのオーバーウェイトを拡大しました。その後も、欧州中央銀行(ECB)による買入拡大や、欧州における財政発動を背景に、周辺国のオーバーウェイトを維持しました。11月以降から当期末にかけては、周辺国のスプレッドが当期を通じて大きく縮小したことを受け、オーバーウェイト幅を一部削減しました。一方、ドイツ金利は依然として低位な水準で推移しており、今後金利が低下する余地は限定的であると考え、デュレーションをアンダーウェイトとしました。

セクター配分戦略に関しては、各国中央銀行による支援策が社債市場にとって強力なサポート材料になるとの見込み、米国および欧州の投資適格社債への配分を維持しました。当期後半にかけて、リスク資産が全般的に回復し、米国投資適格社債のスプレッドが大幅に縮小したことから、同ポジションを一部削減しました。欧州投資適格社債においても、産業や金融セクターを中心にポジションを維持しました。

パフォーマンスについては、デュレーション及びセクター配分戦略におけるポジショニングがパフォーマンスに貢献しました。例えば、当期を通して米国金利が上昇したことから、米国デュレーションのアンダーウェイトがプラスに寄与しました。また、リスク資産にとって良好な地合いが続いた中、米国投資適格社債に対する配分や、欧州周辺国のオー

バーウェイトもプラスに寄与しました。

<ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド>

当期、コミュニケーションセクターの中でも特に娯楽関連の銘柄選択がプラス要因となりました。また、金融、資本財・サービスセクターでの銘柄選択もプラスに寄与しました。一方、生活必需品セクターでの銘柄選択や、同セクターを組入れ高位としたことが、マイナス要因となりました。また、情報技術セクターでの銘柄選択や、素材セクターを非保有としていたことも、マイナスに寄与しました。

当期、主な投資行動としては、市場の混乱を捉えて質の高い成長を実現しており、かつバリュエーションが魅力的な銘柄を購入しました。また一方で、長期的バリュエーションから乖離した株価変動を捉える目的で、「新型コロナ受益銘柄」の組入れを削減し、「新型コロナ損失銘柄」の組入れを追加しました。

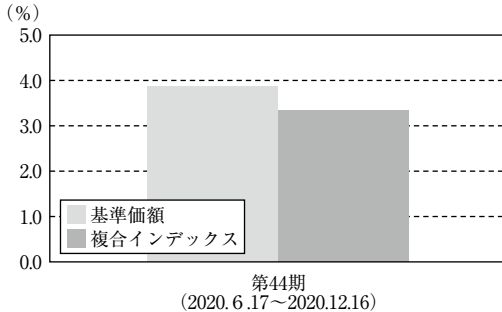
<ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド>

当期の国内株式市場は、新型コロナウイルスの感染拡大及び実体経済に与える影響が警戒される中で、世界各国や中央銀行による金融・財政政策が支えとなった他、企業業績の改善やワクチン開発進展への期待感が高まったことから前期末対比では上昇となりました。このような環境下で、株価上昇に伴い乳業メーカー等を売却した一方で、今後の業績改善を期待した地方郊外型ドラッグストアチェーン等を購入しました。また、収益構造改革の具現化に伴う業績回復が期待された電線メーカーなどがパフォーマンスに貢献した一方で、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う海外事業の業績悪化が警戒された駐車場運営会社などがパフォーマンスにマイナスの影響を与えました。

ベンチマークとの差異について

当期、当ファンドの基準価額の騰落率は、+3.9%となり、ベンチマークである複合インデックスは、+3.3%となりました。

【基準価額とベンチマークの対比(期別騰落率)】



分配金について

収益分配は基準価額水準、市場動向等を勘案して、1万口あたり100円とさせていただきます。留保益の運用につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行いません。

■分配原資の内訳(1万口当り)

項目	当期 2020年6月17日 ~2020年12月16日
当期分配金(税込み)	100円
対基準価額比率	0.87%
当期の収益	100円
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	1,910

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売却等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針について

<内外株式市場に関する市場見通し>

日本株式市場については、短期的には、為替市場での米ドルの動きや、国内における感染拡大への抑制措置などに左右される展開となるとみられます。この2つの要因は、事前に市場に織り込むことが難しいため、基本的には日本株式への下押し圧力となるとみています。米ドルが反転して上昇が加速する場合には、日本株式市場への投資妙味が増すとみえます。一方で、これまでの株式市場の堅調な動きを勘

案すると、ある程度の利益確定売りも想定されます。外国株式市場については、中長期的には、ワクチンの生産・供給の拡大や経済活動の活発化や、主要国での財政・金融支援効果などが、景気や企業業績の回復への楽観的な見通しを押し上げ、リスク資産を下支えするとみえています。一方、短期的には、欧米での感染者の増加や移動制限の強化が及ぼす影響が警戒される中、株式市場は依然として高水準で推移しているため、利益確定売りも散見されており、ボラティリティ(価格変動性)が高まる可能性も注視されます。

<内外債券・為替市場に関する市場見通し>

国内債券市場については、大幅な国債増発にも拘わらず、日本銀行がイールドカーブ・コントロール政策の下、巨額の買い入れを継続していることから、国債利回りは低位でのレンジ形成が続く可能性が高いとみえています。今後、内外の金融・財政面での政策対応が一段と大規模化する可能性もあり、国内経済及び国債市場に及ぼす影響が注視されます。

先進国債券市場は、米国については、追加支援策は大規模化する様相はなく、国債発行の増加には至らないとみえています。米連邦準備理事会(FRB)は、景気回復に向けて、実質金利を低位で維持する必要があるとみられています。欧州については、金融・財政政策の効果や、資産買い入れによる欧州国債の需給の逼迫などが注視されます。

<今後の当ファンド資産配分戦略予定>

前述の見通しに従って、全資産をベンチマークに対して概ね中立として運用する方針です。

投資先ファンドにおける今後の運用方針は以下の通りです。

<日本債券マザーファンド>

ポートフォリオ属性に関しては、中期ゾーンを中心とする下に凸のカーブ形状やカーブ全体に中期的にスティープ化余地大との見方等を背景に、10年近辺のオーバーウェイト、10年-40年のスティープ化ポジションを中心とする残存期間構成を維持します。ポートフォリオのデュレーションについては、ベンチマーク対比概ね中立とします。セクター配分につ

いては、現状のタイトなスプレッド水準や金利ボラティリティー拡大時のスプレッド拡大の可能性等を踏まえ政府保証債および地方債のアンダーウェイト、国債のオーバーウェイトを維持します。信用リスクを伴う債券のセクターウェイトについては、国内発行体の中長期かつ広範なクレジット悪化局面とは考えないものの、日銀の社債買入れの影響やプラス利回りへの選好等から国内事業債を中心にスプレッド水準が必ずしも魅力的でないこと等を鑑み、事業債、金融債、円建外債については中立～小幅アンダーウェイトとします。

<ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし/為替ヘッジあり)>

グローバル経済は、大規模な金融緩和・財政政策の継続、ワクチン開発進展への期待、失業率をはじめとする経済ファンダメンタルズの回復期待を背景に、2021年は緩やかな成長に回帰することをベースケースシナリオと考えています。一方、ウイルスの感染動向による移動制限、インフレの動向、米国政府とFRBの動向、米中を中心とする貿易摩擦再燃の可能性、英国のEU離脱後の通商協定といった一連のリスク要因には引き続き十分に留意する必要があると見ています。

米国金利については、FRBによる緩和策を背景に金利水準は過去と比べて低水準に留まると想定しています。ポートフォリオにおけるリスク資産に対するヘッジとして依然有効と見ているものの、バリュエーションについては割高であり、機動的な対応が必要と考えます。

ユーロ圏については、ECBの買入による需給への影響、および英EU離脱交渉を巡る進捗に注視しつつ、イタリアやスペイン等をはじめとする周辺国を選好します。

セクター配分戦略については、引き続き新型コロナウイルスの影響に留意しつつ、ワクチン開発による経済回復の可能性を考慮した上で銘柄選択に一層注力する方針です。クレジットクオリティ、業界リスク、景気循環性等に注目してポジションを慎重に構築します。

<ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド>

長期的に世界の株式市場は債券のリターンを上回

ると見えています。とはいえ、コロナウイルスの影響および対応策を考えると、今後18か月における成長見通しは極めて不透明です。コロナウイルスに対して必要な施策をとることは、経済活動の大幅な減速を意味しています。大規模な政策対応が世界で取られており、財政と金融の両面でセーフティネットを提供していますが、イベントや旅行といった一部のセクターは2021年を通して影響を受ける可能性もあります。

より長期的には、経済は成長へと回帰すると思われませんが、人口動態の逆風、低い生産性および高水準の債務の影響を受けて経済成長は低水準で、不安定なものとなると見えています。こうした見通しから、財務状況が良好で、マクロ経済環境にかかわらず、高い収益率で良好な成長を実現できる企業がパフォーマンスを上げられると考えています。

<ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド>

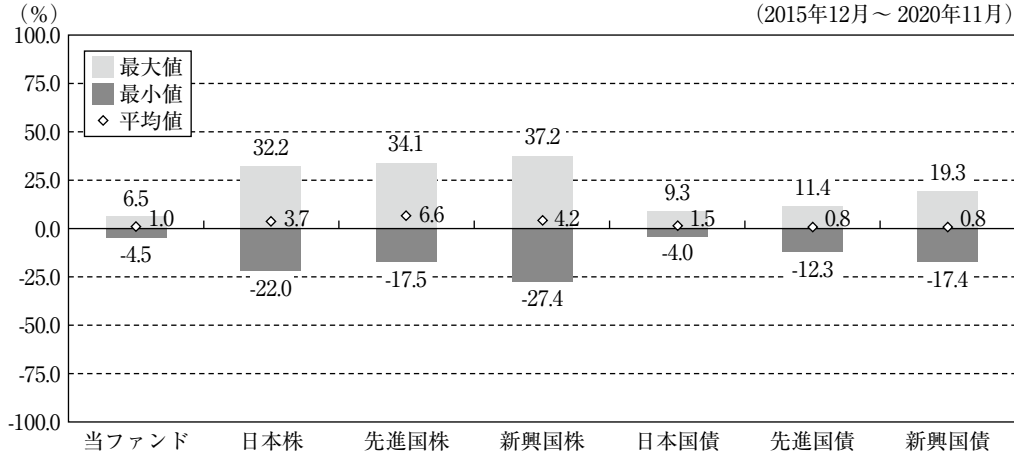
新型コロナウイルスの感染状況や実体経済に及ぼす悪影響が懸念される一方で、ワクチン開発の進展により、株式市場は「コロナ後」の経済回復を意識する局面に移行しつつあるように思われます。「コロナ後の世界」にあっては、コロナ前の水準にまで回復できない産業や企業と、逆にこれを超えて成長している産業や企業が、二極化していく可能性が考えられます。今後は銘柄選定が重要になっていくものと考えられます。特に投資家の注目度が低い中・小型株式市場は、潜在的な利益成長の可能性があるにもかかわらず、低位なバリュエーション水準に放置されている企業が散見される他、独自の成長を続けている企業も多く、依然として魅力的な投資対象であると考えています。引き続き、従来の価値観にとらわれることなく、産業構造や個別企業の「変化」にいち早く着目し、未だ市場において認識されていない高い成長の可能性を持つと考えられる銘柄を積極的に組み入れていきたいと考えています。

◇当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合				
信託期間	無期限(設定日:1998年12月1日)				
運用方針	投資対象ファンドへの投資を通じて、内外の公社債を中心に株式にも分散投資するバランス運用によりリスクを低減しながら、円ベースでの信託財産の安定した成長を目指します。				
主要投資対象	投資対象ファンドは、別に定めるブラックロック・グループの運用会社が運用する投資信託証券で、原則としてアクティブ運用により付加価値を追求する投資信託証券から選定します。				
	<table border="1"> <tr> <td>証券投資信託 (親投資信託)</td> <td> 【日本債券マザーファンド】 日本の公社債 【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行いませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。 【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行いませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。 【日本株式マザーファンド】 日本の株式 </td> </tr> <tr> <td>ルクセンブルグ籍 外国投資証券</td> <td> 【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・フレキシブル・エクイティ・ファンド】 日本の株式 【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド】 日本の株式 【ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド】 日本を含む世界各国の株式 </td> </tr> </table>	証券投資信託 (親投資信託)	【日本債券マザーファンド】 日本の公社債 【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行いませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。 【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行いませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。 【日本株式マザーファンド】 日本の株式	ルクセンブルグ籍 外国投資証券	【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・フレキシブル・エクイティ・ファンド】 日本の株式 【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド】 日本の株式 【ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド】 日本を含む世界各国の株式
	証券投資信託 (親投資信託)	【日本債券マザーファンド】 日本の公社債 【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行いませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。 【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行いませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。 【日本株式マザーファンド】 日本の株式			
ルクセンブルグ籍 外国投資証券	【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・フレキシブル・エクイティ・ファンド】 日本の株式 【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド】 日本の株式 【ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド】 日本を含む世界各国の株式				
運用方法	<p>①投資対象ファンドへの投資を通じて、内外の公社債を中心に株式にも分散投資するバランス運用により、リスクを低減しながら、円ベースでの信託財産の安定した成長を目指します。資産配分については、定期的に見直しを行いません。</p> <p>②ファンド・オブ・ファンズ形式による運用を行いません。</p> <p>③外貨建資産については、為替ヘッジによるリスクの低減を図ります。為替ヘッジ(親投資信託における為替ヘッジならびに投資対象ファンドにおいて円に対する為替ヘッジが行なわれている場合はこれを含みます)を行わない部分を信託財産の純資産総額の原則として30%程度までとします。</p>				
分配方針	<p>年2回の毎決算時(6月16日、12月16日。休業日の場合は翌営業日)に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。</p> <p>■分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収入と売買損益(評価損益も含みます。)等の全額とすることができます。</p> <p>■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。基準価額水準、市況動向等によっては分配を行わないことがあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p> <p>■留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p>				

(参考情報)

◇代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*上記は、2015年12月～2020年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

*上記の騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

*各資産クラスの指数

日本株・・・TOPIX(東証株価指数、配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

<各指数について>

東証株価指数(配当込み)は、東京証券取引所第一部に上場されている全銘柄を対象に時価総額を指数として算出したものです。東証株価指数(配当込み)は、株式会社東京証券取引所((株)東京証券取引所)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。(株)東京証券取引所は、東証株価指数(配当込み)の算出もしくは公表の方法の変更、東証株価指数(配当込み)の算出もしくは公表の停止または東証株価指数(配当込み)の商標の変更もしくは使用の停止を行なう権利を有しています。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発、計算した株価指数です。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)は日本を除く世界の主要先進国の株式を、また、MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は新興国の株式を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権、知的財産その他の一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、日本国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数に関する知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI国債を用いて行なわれるブラックロック・ジャパン株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが発表しており、新興国の現地通貨建ての国債を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しています。

◇ファンドデータ

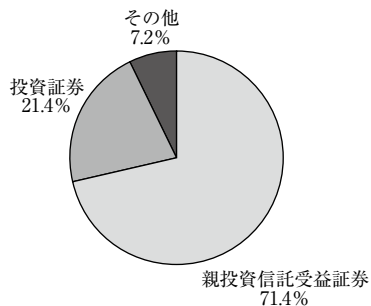
■当ファンドの組入資産の内容

○組入ファンド等

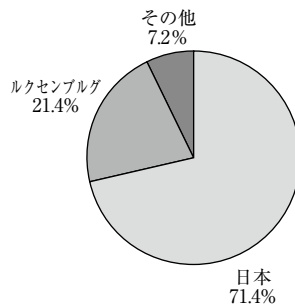
	比率
日本債券マザーファンド	43.8%
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)	13.9
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)	13.7
ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド	11.7
ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド	9.7
その他	7.2

(注) 比率は第44期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

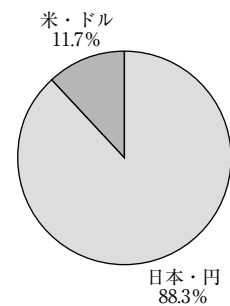
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は第44期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

■純資産等

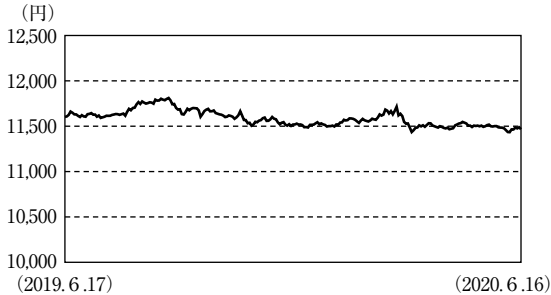
項目	当期末
	2020年12月16日
純資産総額	1,427,633,056円
受益権総口数	1,248,666,619口
1万口当り基準価額	11,433円

* 当期中における追加設定元本額は34,889,535円、同解約元本額は82,227,602円です。

■組入ファンドの概要

◆日本債券マザーファンド

○基準価額の推移



○上位10銘柄

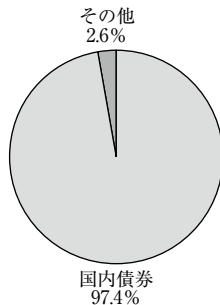
銘柄名	通貨	比率
354 10年国債	日本・円	39.5%
413 2年国債	日本・円	11.5
151 20年国債	日本・円	9.1
24 30年国債	日本・円	7.7
166 20年国債	日本・円	4.9
62 30年国債	日本・円	4.6
46 30年国債	日本・円	4.3
17 道路機構	日本・円	2.6
49 クレディセゾン	日本・円	1.2
11三菱UFJ信託BK	日本・円	1.2
組入銘柄数	20銘柄	

○1万口当りの費用明細

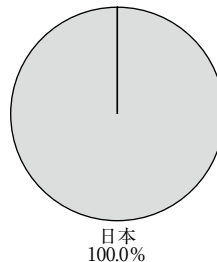
(2019.6.18~2020.6.16)

項目	当期
	円
(a) 売買委託手数料	-
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (その他)	0 (0)
合計	0

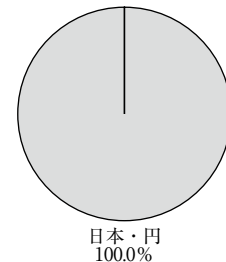
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

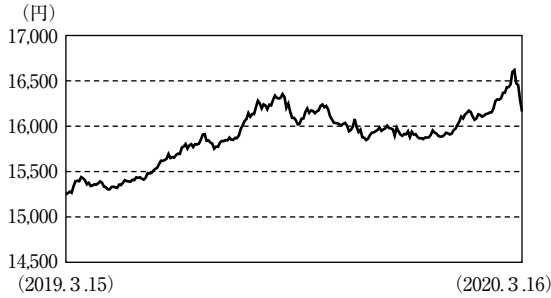
(注4) 通貨別配分のデータは実質為替組入比率を記載しております。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

◆ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)

○基準価額の推移



○上位10銘柄

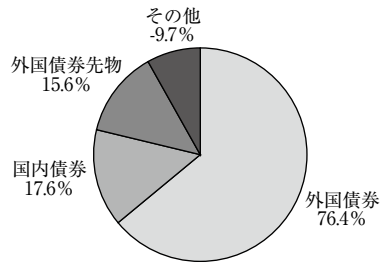
銘柄名	通貨	比率
TSY INFL IX N/B 0.5% 2024/04/15	米・ドル	6.7%
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 1.25% 2022/02/28	米・ドル	3.2
130 20年国債	日本・円	3.1
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 1.5% 2021/10/31	米・ドル	2.3
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 1.75% 2024/07/01	ユーロ	1.9
FRENCH REPUBLIC GOVERNMENT BOND OAT 0% 2025/03/25	ユーロ	1.9
UMBS 30YR TBA (REG A) 3.5% 2020/04/15	米・ドル	1.8
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 1.5% 2020/06/15	米・ドル	1.7
BUNDESobligation 0% 2023/10/13	ユーロ	1.7
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 1.25% 2026/12/01	ユーロ	1.6
組入銘柄数		378銘柄

○1万口当りの費用明細

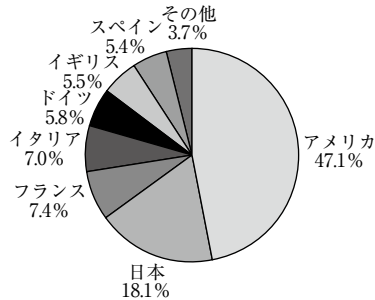
(2019.3.16~2020.3.16)

項目	当期
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	1円 (1)
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (保管費用)	10 (10)
(その他)	(0)
合計	12

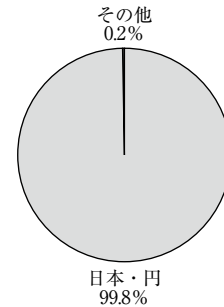
○資産別配分



○国別配分



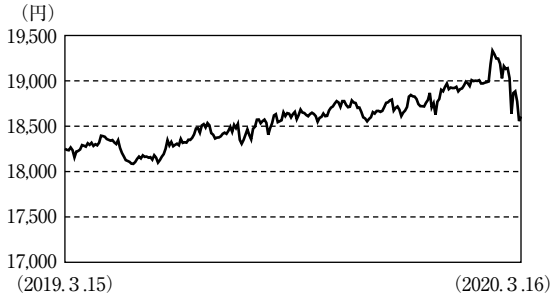
○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。
 (注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。
 (注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。
 (注4) 通貨別配分のデータは実質為替組入比率を記載しております。
 (注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
 *組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

◆ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)

○基準価額の推移



○上位10銘柄

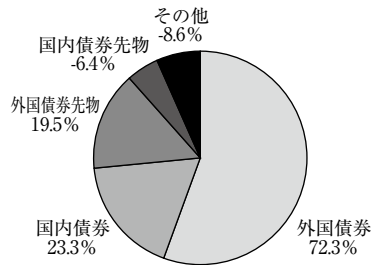
銘柄名	通貨	比率
TSY INFL IX N/B 0.5% 2024/04/15	米・ドル	6.9%
130 20年国債	日本・円	6.4
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 1.125% 2022/02/28	米・ドル	3.1
339 10年国債	日本・円	2.8
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 1.75% 2024/07/01	ユーロ	2.3
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 1.5% 2021/10/31	米・ドル	2.1
FRENCH REPUBLIC GOVERNMENT BOND OAT 0% 2024/03/25	ユーロ	2.1
UMBS 30YR TBA (REG A) 3.5% 2020/04/15	米・ドル	2.0
406 2年国債	日本・円	2.0
54 30年国債	日本・円	1.6
組入銘柄数	310銘柄	

○1万口当りの費用明細

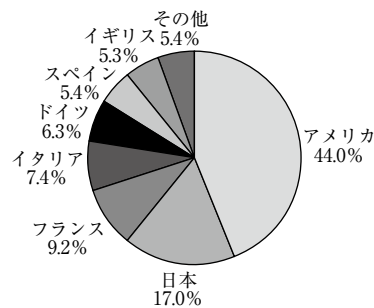
(2019.3.16~2020.3.16)

項目	当期
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	2円 (2)
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (保管費用)	14 (14)
(その他)	(0)
合計	16

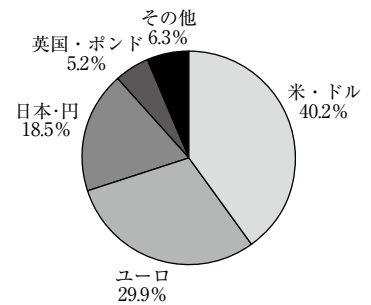
○資産別配分



○国別配分



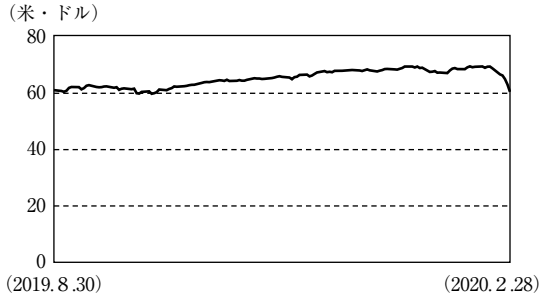
○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。
 (注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。
 (注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。
 (注4) 通貨別配分のデータは実質為替組入比率を記載しております。
 (注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
 *組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

◆ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド

○基準価額の推移



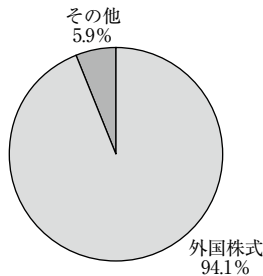
○上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
NESTLE SA	スイス・フラン	6.5%
COMCAST CORP CLASS A	米・ドル	5.7
TRACTOR SUPPLY	米・ドル	5.5
BOSTON SCIENTIFIC CORP	米・ドル	5.1
UNITEDHEALTH GROUP INC	米・ドル	4.8
BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	英国・ポンド	4.3
MASTERCARD INC CLASS A	米・ドル	4.1
HDFC BANK LTD	インドルピー	4.0
THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	米・ドル	4.0
TRANE TECHNOLOGIES PLC	米・ドル	3.9
組入銘柄数	28銘柄	

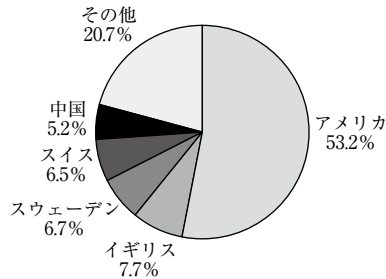
○1万口当りの費用の明細

当該情報の取得が不可能であるため記載しておりません。

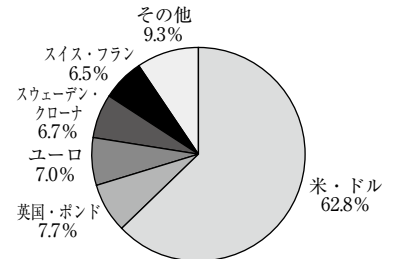
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

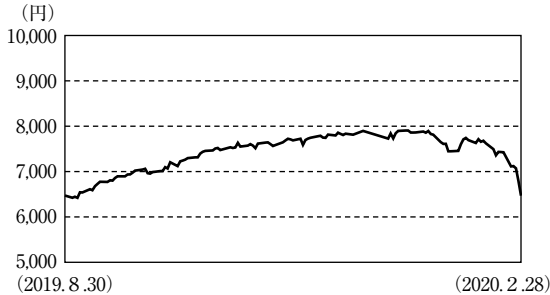
(注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

* 当社適時開示資料作成にあたり使用しておりますブラックロック・グループのデータに基づき記載しております。上記ファンドの管理会社が作成しているデータに基づく運用報告書(全体版)の参考情報と相違する場合があります。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

◆ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド

○基準価額の推移



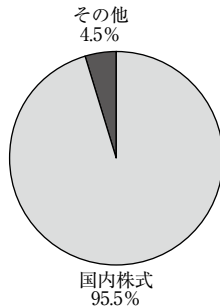
○上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
ニチアス	日本・円	2.1%
ダイフク	日本・円	2.0
京成電鉄	日本・円	1.9
シップヘルスケアHD	日本・円	1.9
日清製粉G本社	日本・円	1.8
ビックカメラ	日本・円	1.8
ニチレイ	日本・円	1.7
マツモトキヨシHLDGS	日本・円	1.7
CKD	日本・円	1.7
日本リート投資法人	日本・円	1.6
組入銘柄数	96銘柄	

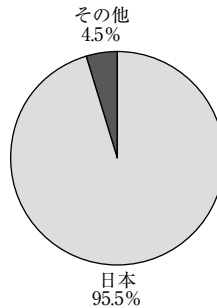
○1万口当りの費用の明細

当該情報の取得が不可能であるため記載しておりません。

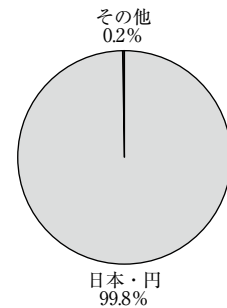
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

* 当社適時開示資料作成にあたり使用しておりますブラックロック・グループのデータに基づき記載しております。上記ファンドの管理会社が作成しているデータに基づく運用報告書(全体版)の参考情報と相違する場合があります。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。